



No.146

2021

無 毒 燈

MUJINTO

特集

● ●
輝く☆同窓生
大谷大学と私

日本を代表する伝統文化について語る
豊島修名誉教授



大谷大学
同窓会

大谷大学同窓会

たむら けいご

田村 圭吾さん

(1991年度・文学部仏教学科卒)

にしお はるお

西尾 晴夫さん

(1993年度・文学部哲学科卒)

インタビュー 無盡燈編集委員 みやけ しんいちろう 三宅 伸一郎(大谷大学教授) 対談日 2021年2月

自分の能力、可能性への挑戦が「伝統」を継承し、 さらなる発展へとつながる



自分の可能性に気づく

三宅 今回の「輝く☆同窓生」では、2020年12月にユネスコの無形文化遺産に「伝統建築工匠の技 木造建築物を受け継ぐための伝統技術」として登録された中の茅葺職人としてご活躍の西尾晴夫さんと、2013年に同じく「和食」が登録され、その記念晩餐会で料理人を務め、現在では家業の傍ら文化庁の文化交流使や京都観光おもてなし大使としてもご活躍の田村圭吾さんに、日本を代表する伝統文化を継承するやりがいやご苦労について対談いただきます。それでは早速ですが、大谷大学に入学した経緯と学生時代の様子についてお話しください。

西尾 親の仕事の都合で全国を転々としたが小学校と中学校では、社会科の歴史・地理の進み方が学校によって違ってました。そのため私は社会科でぜんぜん得点できず、それで高校のときに独学で倫理政経を勉強したのです。もともと理系志望でしたが、急遽文系の哲学科に行こうと思ひまして。倫理政経で受験できると思ったら関西では大谷大学しかなかったのです。それがわかったときは大谷大学の入試が終わっていたので仕方なく一浪しまして、翌年大谷大学一本で受験しました。浪人中に哲学書を読み漁り、西田幾多郎先生がかつてここで教鞭をとっておられたということも受験した理由のひとつです。

三宅 哲学に興味を持ち、西田先生が教えておられたということもご存じで哲学科に入学したということですね。

西尾 しかし、大学ではほとんど勉強していませんで



西尾 晴夫さん

た。親には申し訳ないですけども、学費の全部は体育館使用料みたいな感じでした(笑)。

田村 私は家が料理屋ですので専門学校に行ってからそのまま修業に入るという方法があったのですが、大学はやっぱり行っておいた方がいいだろうと。子どものときからボーイスカウトをしており、その中で「明確な宗教心を持ちなさい」と教えられたこともあり、その体験からいろいろと考えることがあったのと、歴史とか民俗学的なことが好きなこともあったので、高校の先生に相談したら大谷大学なら宗教心みたいなことも学べるといわれ、指定校推薦で仏教学科に入学しました。学生時代はボーイスカウトに力を入れていましたので、京都の代表をさせていただいたり、日本代表としてオーストラリアに派遣されたりという中ですごく勉強になりました。2019年には文化庁の文化交流使として世界六カ国を周りまわりましたが、宗教的概念から世界の人々と向き合えたというのは、今の私の大きな一つの財産かなと思います。



田村 圭吾さん



ニュージーランド大使公邸での晩餐会

三宅 大谷大学で学んだことで役に立ったことがございますか。

西尾 大学ではバスケットボール部に入りまして、当時の体育会は先輩の言うことは絶対で、そこでだいぶ開発していただきました(笑)。例えば、学食で先輩とご飯を食べていて、先輩がご飯を奢ってくれるのですけれども、「西尾、食後にこのテーブルの上で歌うたえ」と言うのです。歌というあの第一寮歌なのです。「いや先輩、皆さん食事されているのにこんなところで」と言うのと、「誰のおかげで飯食べられてると思うてんねん」と言われて、それでテーブルの上で「押忍！大谷大学哲学科バスケットボール部一回生西尾晴夫、歌います！！」と言っ



三宅 伸一郎編集委員

て「若き血潮に〜」と歌うと手拍子が始まりまして、最後に拍手でワーと言って喜んでくれて。私はこんなところで歌うのは非常識だし、失礼だと思っていたのですが、みんな喜んでくれるので、「ここまで俺ってできるんだ」とすごく世界が広がったのです。

それは先輩のおかげだなと思っていました、だから茅葺職人というのが、今、二十代で誰も日本にいない状況の中で「よっしゃ、俺がやってやろう！」という下地は大谷大学の体育会でできたのです。
三宅 先ほど「開発」とおっしゃっていましたが、ようやく理解できました。これまでできなかった状態を打ち破れたという意味での開発ですね。



職人のみなさんと

職人の道を選ぶ

三宅 卒業されてから職人の道に進まれたきっかけは何でしょうか。

西尾 直接的なきっかけはアルバイト情報誌で茅葺職人の募集を見たことです。私は会社で働くイメージが浮かばなくて就職活動を一切せず、アルバイトを探そうと思って情報誌を見たら茅葺職人募集というのがあったのです。

三宅 情報誌の茅葺職人募集を見て、本当にすぐ決断されたのですか。何の迷いもなく？

西尾 迷いはなかったですね。でも親を始め、周りからは大反対されました。茅葺職人になると決めたという「あほとちゃうか」とか言われたんですが、この大谷大学で四年間先輩に鍛えていただいて、もう自分にできないことはないという無限の可能性を自分に感じていましたので



「できるはずだ!!」という根拠のない自信で何を言われても気にはならなかったです。

三宅 田村さんは、迷いはなかったのですか。

田村 私は長男ですから選択の余地がありませんでした。しかし、敷かれたレールに乗っかりたくなかったのでしょうか。教職を考えて、教育実習に行く前に、実は親戚から「お前はもう二度とこの家の敷居をまたぐ気はないのやな」と言われて、「どういうことですか？」と聞くと、「お前はお前の両親だけが育てたわけではない。お前はここの長男としてこの家の跡取りとしてわしもそうだし、おじいちゃんもおばあちゃんも従業員もそうだ。その期待を裏切って好きな道に行くのだったら行ったらいい。その代わりに二度とこの敷居をまたぐなよ」と言われて、確かにそうだなと思いました。でも、大学で履修していた



小学校での食育授業

教職課程で学んだことが、もう二十年近くやっている食育活動にもプラスになりました。

三宅 敷かれたレールには乗りたくなかったけれども、親戚の方に「この敷居をまたぐな」と言われて決心されたのですね。

田村 はい。それで卒業後には、一年ちょっとカナダの Language Schoolに通っていたのですけれども、その時の経験がのちの料理業界の海外での普及活動や文化交流使につながってくるのです。帰国後、各地で修業して京都へ戻ると間もなく、日本料理アカデミー(※)という団体が設立され、海外のシェフとの交流事業や私がボーイスカウトで得た経験から、食を通して日本文化の普及活動をする食育がしたいなと思ったんです。単に栄養がどうか、朝ご飯をきちんと食べようということではなく、日本料理は日本文化の集合体として重要なんだというところを子どもたちに伝えたいなと思って、それからずっとさせていただいています。

三宅 すんなりと家業を継ぐということになったのですか。

田村 そうですね。たぶん西尾さんは職人として本当に歩まれた方だと思いますけれども、私は、仕事は？と今聞かれると料理人というより料理屋の主人業みたいなことをしていますと答えるようにしています。例えば私が職人としてのこだわりを持って、良いものを最高のものをと追っていくことも大切ですが、商売とのバランスを考えねばなりません。もちろん料理はしますが、今は店の中で包丁を持つより、外でいろいろな教室をやるとか、お客さんと話したり出迎えたりすることの方が多くなりました。でも、今日も中央市場に行ってきました。やはり料理の基本は目利きなので。

※田村さんの日本料理アカデミーでの活動や、和食が無形文化遺産に登録された経緯については同窓会ホームページで紹介しています。

経験から学ぶ

三宅 西尾さんは新しい世界に飛び込んで一番苦労されたことは何でしょうか。

西尾 レールに乗りたくなかったというのは田村さんと一緒です。しかし、職人になって一ヶ月で後悔しました。これはないわと。まず雨が降ったら仕事ができない。冬場に雪が降っても仕事ができないのです。兄弟子は冬場にスキーのインストラクターをしておられて、私は仕方がないので焼き芋屋をしていました。

芋の仲買いさんに「病院の前だったら売れると聞いたで」と教えてもらったので、東福寺近くの病院の前で一日100本以上売ってました。

田村 今だったらガードマンが来て追いやられそうですけどね。

西尾 いや、当時も警察が来て駐禁を取るのです。それでパトカーが来たら片付けて逃げて、また戻ってやってきました(笑)。その時に独学で商売というものを覚えました。ある時、人だかりができたたら人が寄ってくるということに気がついて「ちょっとお願いしますわ」と言って雑談して引き止めるのです。そうして人だかりができたたら芋を売って、最後の一人二人になったらまた引き止めてといった売り方をしていました。

また、京都の四条に行列のできる焼き芋屋さんがありまして、そこに行って「おっちゃんの店すごいので見させてくれ」と頼み、一日立たせてもらうと、そこの大將は、「冷やしてから羊羹みたいに切って、爪楊枝で刺してお茶請けとして食べてください」と口上を述べていました。焼き芋なのに冷めてからが美味しいので遠く東京から買いに来られる人もいて、五千円から一万円分まとめて買われるのです。それで同じ芋でも売り方ひとつでこんな違うのかということ学びました。

今、茅葺きの一棟貸しをやっていますけれども、職人だけ



イギリスでの武者修行

けでなく、そういう商売ごとができるのは、独学で焼き芋屋の経験で学んだからです。また、26歳の時にモスバーガーさんがスポンサーになってくれて1ヵ月イギリスに行って修行しました。その時にクリスさんという親方に「日本で三人しかいない二十代の職人の一人だけでも、帰っても続けていけるか不安です」と相談したら、「ハルオ、もっと自信を持ちなさい。これは人類最古の技術なのだから。」と言われまして、それでハッと気がついたのです。五千年の歴史があると言われる茅葺職人の末裔なのに、よくよく考えれば美山の技術しか知らなかったのです。

昭和一桁生まれの職人さんは全国にたくさんいらっしゃったのですが、二十代は三人しかいないという状況の中で十年後を見たときに、その先輩方が辞めたら日本の特色のある、地域性のある技術がなくなってしまうと気づきました。それからは冬場の焼き芋屋を辞めて全国武者修行を始めて「ただでもいいから働かしてくれ」と言って茨城県とか岡山県とかで働きました。そのおかげでいろいろな地方のやり方を覚えて、今では全国から依頼がくるようになりました。



伝統を受け継ぎアップデートする

三宅 これからなくなっていくのではないかという危機感を抱えつつ将来へつなげていきたいという強い思いがあるということですか。

西尾 そうです。現代的なやり方もやってみたいなと思って、今年から不動産特定共同事業に取りくんできて、その認可が下りれば一般の方に投資していただけるようになるのです。美山町には今、五百軒ぐらいの茅葺きがあるのですが、それがどんどん空き家になって売りに出ていくので、皆さんからの投資金で買い取って、それをシェアしていただくというように取り組もうと頑張っています。

田村 西尾さんの焼き芋屋さんの話とか給料いらないから教えてくれといった話は、周囲からは「あほや」とか「何してんねん」と言われたんでしょうね。私も、親とかに大反対されて「料理人が学校の先生をしてどうするねん」とか言われました。よく頑固だと言われますけれども、やはりそういうものを捨てたらいけないのだと改めて思いましたし、大学にこういう同窓がおられることがわかってすごく勇気をいただきました。

三宅 一昨年前の白川郷と美山町で開催された「世界茅葺き会議」の場で、外国の人々から「自分たちはノスタルジーを捨てた」と発言があったそうですね。

西尾 そうです。「ノスタルジーはもう二十年前に卒業した」とどの国の方も言っていました。やっぱり二十年前



は日本みたいに各国とも歴史的な技術という中でしか生きていなかった。当然産業としては廃っていく中でしたけれども、そこからいかに受け入れられるかということへ方向転換をしたのです。それで私も日本の茅葺きというのは「日本人の永遠性を表現された神殿である」という日本人の精神性をすごく伝えているものでありつつ、そこから脱却したものもこれから造っていきたいなと思っています。

田村 和食の世界も一緒です。皆さんは、残さなければいけないものは日本食の懐石スタイルと思っておられるでしょうが、それを日常生活で使えるかといったら、そうではないですよね。我々も生活がありますし、外食産業の枠組みの中でやっているのでは絶対に太刀打ちできません。その中でいかに皆さんにその価値を認めていただけるか。我々は受け継いできたものだけでなく、新しいものを発信しようとしています。それは、いかに今の人たちにマッチしたものを提供することができるか、そして皆さんがそれにお金を払ってくださるかどうかというようにやっていかないと成り立たないわけです。そういう意味で現代的なものに変わっていかなければいけないだろうし、だから西尾さんがおっしゃっていることは本質的には一緒なのだなお聞きしていたのです。

三宅 そういう意味で「伝統」という言葉の意味というのは、何か昔からぜんぜん変わっていないものというのとは違う意味合いで捉えたらいいのでしょうか。

田村 ベーシックなものは一緒だと思うのですが、我々もよく言われるのは「親父と同じ料理をしてたら絶対あかん」と。でもそれは十年前二十年前と比べたら全く違うことをしていてもそれをわからないようにちょっとずつ変えていく、しかし、そのためにはしっかりと前のものを学んでおかないと受け継いでいけないし、全く違うものになってしまう。

前のものをしっかりと理解したうえで自分のときにアップデートしていくことが大切なのかなという意味でも時間と労力は必要です。ただ、それは若い人たちはなかなか理解できないというか、私たちも理解できなかったのかもしれないけれども。

三宅 理解できなくてもそこに飛び込んでみると理解できるようになっていくところがあるのかもしれないね。



西尾 今茅葺きで

は、草で二十年もつ屋根、しかも美しい屋根を造るのですけれども、やっぱり先人たちが手をかけてできているわけで、例えば茨城県にはすごい技術がありまして、いろいろな素材を使って色鮮やかにストライプ状に造るのです。藁で白い屋根をつくって、次に煤けた古い茅で黒い屋根をつくって。また、千葉県では一度松の葉っぱを混ぜた層を見たのです。私はそれを解体したときにここまでやるかと思ったのです。そのときにこれを造った人が語り掛けてくるというか、「考えて考えて俺はこれをやってみたんや」ということを感じたわけです。だからそういう創造力というかチャレンジというか、それが私たち茅葺職人としての伝統だと思っているのです。だから今衰退していても、そこから盛り返してやるぞ、どうやったらいけるかなというのが私たちの伝統なのです。

三宅 茅葺きは、古いものを取り除いていく際にそういう先人の残したものを目の当たりにするところがある

あって、そこが職人のさらなる挑戦心というのを掻き立てるところがあるのですね。

西尾 はい。屋根の上から順番に取っていくのですが、ここで雨が降ったとか、ここで材料がなくて古いを使ったとかやりながらわかります。

三宅 最後に、今後大谷大学の卒業生となっていく方に期待したいことがありましたらお願いします。

田村 今みんなオリジナリティーとか自己表現とか言うわりに、結局収まってくるころは一緒かなと。私たちのときもそうでしたけれども、やっぱり待遇が良いとか休みが多いとかそういうところでしょうか。もし本当に何もやることが見つからなかったら、その社会の歯車になるのではなくて、モノをつくって自分で生産できる能力みたいなことを見出してもらえ、そんなモノづくりの世界に、ぜひ踏み込んできてもらいたいです。別に大学卒業でもぜんぜん遅くないですし、ただその代わりサラリーマンみたいな生活はできませんよというのがあるでしょうけれど(笑)。

三宅 自分の能力、可能性に挑戦してみたいということですね。お二人のお話をお聞きし、「伝統」とは何かとか、人は何のために働くのかということについて、大いに考えさせられました。本日はどうもありがとうございました。



■ 京料理 萬重(まんしげ) 創業 昭和12年(1937年)

〒602-8438 京都市上京区大宮通り上立売下芝大宮町9-1

☎075-441-2131

ホームページ <http://www.kyoryori-manshige.co.jp>

携帯サイト <http://bemss.jp/kyoryori-manshige/>

織の町西陣中心地に位置し、旦那衆から愛されてきた料理屋。

初代の「味のふるさとづくり」をモットーに毎朝主人自らの目利きで仕入れた季節の食材を提供する。

若主人は文化庁文化交流使、京都観光おもてなし大使でもある。



■ ニシオサプライズ株式会社

〒601-0751 京都府南丹市美山町島英サ29 ☎0771-75-5125

ホームページ <https://www.miyamafandb.com/>

茅葺き一日一組一棟貸しの宿「美山FUTON&Breakfast」現在4棟運営中!! 「美山F&B」で検索

著書『私は、なぜ茅葺き職人になったのか』

Amazonにて販売中



新会長からのメッセージ

大谷大学同窓会 会長 さがえ なつふみ 佐賀枝 夏文



菩提樹の学び舎

この度、石橋義秀前会長の後任として就任することになりました佐賀枝夏文です。浅学菲才の私に相応しいとは思えないのですが、母校大谷大学を「こころのふるさと」とする同窓生のひとりとしてお引き受けいたしました。同窓会長としてご尽力いただいた佐々木教悟先生、藤島建樹先生、石橋義秀先生に篤く御礼申しあげ、その功績を汚さないように歩む所存です。同窓会員のみなさまが年代を越えて「絆」がつながり、そして、力強い「絆」の広がり「かなめ」としての同窓会活動が行われますことを願い、微力ですが尽力して参りたいと考えております。どうぞ、皆様方のご協力を是非ともお願いいたします。

わたしたちの母校大谷大学の烏丸通の正門にある「知進守退」の石碑、その傍で寄り添うように古木菩提樹があります。この菩提樹は学園整備で植え替えられて現在地に落ち着いたと聞いております。古木菩提樹から母校の確かな歩みを感じます。インド菩提樹は日本の気候では生育できにくいので、インド菩提樹ではないようです。菩提樹に心を寄せるきっかけは、心理カウンセラーへの道筋で、ドイツで考案された「バウムテスト(樹木画テスト)」との出会いからです。森の国ドイツでは「人生に悩んだら、森に入り樹木に尋ねてきなさい」という言い伝えがあり、バウムテストとして考案されたと聞いています。バウムテストは実施が簡便なこととテストらしくないことで関心を持つようになりました。はじめは解析と解釈に関心を持っていたのですが、次第に樹木そのものに興味関心をもつようになりました。それは、お釈迦さま由来の無憂樹、菩提樹、沙羅樹の仏教三聖木を知り、興味と関心を深く持つようになりました。谷大の菩提樹は新緑のころ芽吹き実を付けます。その実はお念珠にはやや小さいのですが、腕輪念珠にしました。この菩提樹の実生樹をキャンパスに探したことがあります。心に残っているのは旧図書館の中庭のコンクリートのすき間に生えた幼木がありました。苦境に実生した幼木に人生を重ねてみました。秋も深まると枯れた葉っぱが実を抱えて大地に布置されます。実生し双葉をつけるものもありますが、なかなか樹木にはなりません。一本の樹木が誕生することの意味と、人間の誕生の意義を重ねました。

冬枯れの菩提樹を見て、葉っぱでおおわれているとわからなかった姿に出会いました。折れた枝、傷ついた幹と風雪に耐えた姿をみせてくれます。菩提樹が「生きることは、さまざまなことに出会い無傷では生きれない」と語りかけているようです。

碑文の「知進守退」、そして菩提樹の学び舎で、恩師、とも朋友との出会いは、わたしたち同窓生の生涯の礎であり、生涯の拠り所「こころのふるさと」です。

母校大谷大学の発展を願い、同窓生の誇りを大切に共に歩みましょう。



知進守退と菩提樹(奥)

大谷大学と私



名譽教授
豊島
修

大谷大学での学究生活と宗教民俗学 ～五来重博士に導かれて

私が大谷大学史学科に入学したのは、1963(昭和38)年4月。本学の史学科(国史学専攻)を選んだのは、国史学の先生方の中に五来重博士(中世史、民俗学専攻)がおられたからである。私は高校時代、NHKのラジオ放送で柳田國男先生の日本の昔話研究とともに、五来先生の仏教民俗学の話を押聴していた。そして「近世民衆(農民)の精神生活」、特に「神事と仏教民俗」を具体的に学びたいという思いを持っていた。

3回生の専攻分野決定で、五来先生のゼミへ所属することができた。もっとも3・4回生の演習授業では当初の思いとは異なり「大塩平八郎の乱と思想史研究」を論考した。この研究は一応満足した内容であったが、入学当初から思っていた「近世民衆の精神生活」研究とはほど遠かった。有難いことに五来先生から大学院に進まないかとお声掛けをいただいた。そこで父親の許可を得て、同大学院(修士・博士課程)に進学することになった。

あの頃、周りには学問探究への意識が高い、熱心な先輩方ばかりで、私も早くあのようにならねばと大変な刺激を受けたものであった。修士課程では、最初に五来重先生から西岡虎之助博士の『民衆生活史』研究(昭和23年刊)を読むように薦められたことが思い出される。「反骨の歴史家」といわれた同博士からは、「民衆の生活」に焦点をおいた歴史こそが本当の歴史であるということを学んだ。

民衆の精神生活(神事・仏事・俗言)と年中行事、仏教講、民間芸能、口承文芸などの諸史料と民俗資料を求め、畿内や信濃・秋田地域など各地を積極的に調査(フィールド・ワーク)した。文献史料に記されたことを体系的に整理・分類して比較類推するだけでなく、「民俗伝承」を有力な資料として活用すること。それもまた五来先生から学んだことであった。

こうして地域史料の調査を含め約三年をかけて修士論文を作成し、さらに三年間の博士課程へと進んだ。充実した研究生を送るうち、大谷大学特別研究員に採用していただき、文学部助手、専任講師となり、国史学基礎講読や民俗学を担当することになった。1980年のことである。

その間、私の研究対象は、仏教史・日本文化史の中でも重要な「修験道史の研究」が多くを占めるようになった。その背景にはやはり五来先生の御研究の影響があった。仏教民俗学研究が日本宗教民俗学という学問に大きく発展した契機は、先生が『熊野市史』(三重県熊野市、三巻書)の編纂を通じて「古代日本人の海の宗教」に着目されたことであると拝察する。

2007年10月、私や木場明志教授、OBの鈴木昭英氏・日野西真定氏、根井浄氏そのほか卒業会員とともに、五来先生がご健在のころに念願されていた「日本民俗学会」の博学開催が実現できたことは誠に感慨深く、僅かでも先生への御恩返しをさせていただけたならば光栄である。

大谷大学では多くの恩師に恵まれただけでなく、志を同じくする良き先輩や良き友人たちに支えられた。教鞭を取ることになってからは学生たちにも恵まれた。1997年、慢性腎不全の悪化により人工透析に多くの時間を割かれながらの通勤となってしまっても、本当に多くの方々に助けていただき、無事定年を迎えることができた。御恩をいただいた方々への感謝をあらためてこの場で申し上げたいと思う。

また、コロナ禍において学生諸君がのびのびとした大学生活を送ることが困難な状況であることに胸を痛めている。一日も早い収束を願うとともに、そのような状況下においても、御縁を大切にしながら、限られた時間の中で多くの先生方の御研究に接し、生涯の宝となる有意義な経験をされることを心から願っている。

略歴紹介

とよしま おさむ
豊島 修 名譽教授

- 1943年 9月 中国東北部に生まれる
- 1967年 3月 大谷大学文学部卒業(国史学)
- 1970年 3月 大谷大学大学院修士課程修了
- 1973年 3月 大谷大学大学院博士課程満期退学
- 1976年 4月 大谷大学文学部助手
- 1980年 4月 大谷大学文学部講師
- 1989年 4月 大谷大学文学部助教授
- 1994年 4月 大谷大学文学部教授
- 2003年 3月 博士(文学)学位取得(大谷大学)「修験道史研究と庶民信仰史論」
- 2009年 3月 定年退職
- 2009年 4月 大谷大学名譽教授
- 2009年 4月～2017年 3月 京都女子大学教授(国文学)

【専門】 日本宗教民俗学

【著書・編集・論文】

- 『熊野信仰と修験道』(名著出版)
- 『死の国・熊野 一人の日本人の聖地信仰』(講談社)
- 『現世と来世の安楽を祈る聖地』(朝日新聞社)
- 『紀伊山地の歴史と文化について』
(「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録記念 特別展
「祈りの道～吉野・熊野・高野の名宝～」)
- 『熊野信仰史研究と庶民信仰史論』(清文堂出版)
- 『熊野信仰の世界 一その歴史と文化』(慶友社) その他

大谷大学同窓会ホームページをリニューアルしました

2021年4月1日より、大谷大学同窓会ホームページ「無盡燈」をリニューアルしました。今回のリニューアルでは、スマートフォンでの表示に対応するためのデザイン変更を行い、トップ画面からはプルダウンにより各コンテンツを探しやすくしました。また、新しいコンテンツとして「同窓生きずな発見!! ヒロガル×ツナガル紹介リレー」、「掲示板のことは」、「無盡燈」読むページ」をスタートしました。



大谷大学同窓会 無盡燈

同窓会情報

同窓会案内

活動状況

無盡燈/尋源館

お問い合わせ

リンク集



Otani University Alumni Association

M U J I N T O No.146 June 2021



掲示板のことは

● 掲示板のことは

昨今のコロナ禍において「お寺の掲示板」に注目が集まっています。一見すると意味不明で破天荒にも見える言葉でも、気づかされたり、考えさせられるものなどがあり、また、そこに制作者の個性も見えて、人間味を感じるものが多くみられます。

そこで同窓生の中から、毎回掲示板の制作に工夫を凝らされている有志の方に協力いただき「掲示板のことは」実行委員会を作り、自坊の掲示板や街中でふと目を引いたメッセージなどを毎月紹介していきます。

4月からのスタートにあたり、メンバーの方々は「新型コロナウイルス感染症を機縁に、お寺では「発信する」大切さを再確認することになりました。この「掲示板のことは」がその一助となるようにしたい」と語られていました。



実行委員会メンバー

- 飛騨支部 窪田 純 (2001年真宗学修了)
- 函館支部 門間 晃樹 (2017年真宗学科卒)
- 三条支部 山崎 超 (2017年真宗学科卒)
- 飛騨支部 森 恒河 (2016年真宗学科卒)
- 能登支部 長尾 浩美 (2016年真宗学科卒)
- 久留米支部 林田真貴子 (2013年真宗学修了)

● 同窓生きずな発見!!

ヒロガル×ツナガル紹介リレー



同窓生の
きずな発見!!
ヒロガル×ツナガル
紹介リレー

同窓生の近況や在学時のエピソードを紹介し、次に紹介したい知人へバトンをどんどん繋いでいく企画です。

記念すべき第1回は、市川紘平さん(2008年仏教学科卒)にご協力いただきました。現在は高槻市で「キッチンスヌグ」というイタリアレストランを経営されています。市川さんから始まった同窓生の繋がりがどのように展開していくのか、大変楽しみです。

「思い出のあの人の今は?」、「次はわたしにバトンが回ってくるかも!」そんなワクワク感を楽しんでいただけるコンテンツとして育てていきたいと考えています。



●『無盡燈』読むページ



会報『無盡燈』は144号(2019年発行)からリニューアルし、「輝く☆同窓生」をスタートしました。その「輝く☆同窓生」をはじめ、歴代名誉教授に執筆いただく「大谷大学と私」、同窓生からのメッセージ「同窓通信」、現役教員のコラム「現役教員からのお便り」などを見やすくまとめたページです。

※143号以前は「無盡燈ギャラリー」のPDFをご覧ください。



尋源館 1 階に「校友ラウンジ」が完成

2021年4月、尋源館の1階に「校友ラウンジ」を設置いたしました。「校友ラウンジ」は、同窓生をはじめ、大谷大学とご縁のある方々が、大谷大学にお越しになられた際に、快適にご利用いただくための施設です。

また、壁面には、写真や絵画などを展示するピクチャーレールを設置しており、大谷大学博物館の企画展等と関連した展示や、イベントでの作品展等を開催する予定です。

現在(2021年6月)は、新型コロナウイルス感染症拡大により、キャンパス内の入構が制限されていますが、キャンパス見学にお越しいただけるようになりましたら、同窓会のホームページでお知らせいたします。



同窓会活動報告

2020 Alumni Activity Report

学生たちに支援を行いました!!

◆ 谷大生応援プロジェクト

2020年11月14日の学園祭期間中に、新型コロナウイルス感染症の影響で生活が困窮している学生を支援するために、同窓会地域支部を中心に多くの同窓生の皆さまからレトルト食品などの常温長期保存が可能な食料品の提供をいただき学生に配付しました。

学生からは「同窓会の方たちの好意によりこのような機会をいただけて大変助かりました。」「新型コロナウイルスでアルバイト先を失い、生活が厳しく今回のご提供いただいた食品は本当に嬉しかったです。」などと感謝の声が寄せられました。



配付当日の様子

◆ 同窓会支援井

新型コロナウイルス感染症により困窮している学生を支援する一環として、対面型で後期授業がスタートした9月18日から後期試験終了日までの半期間、学生限定で「同窓会支援井」と銘打って、通常価格360円の井を200円で提供しました。

密を避けるため、昼休みの食堂利用を学部ごとで制限していたこともあり、カフェでもテイクアウトで販売し、連日売り切れになるほどの盛況ぶりでした。また、食堂では70円の同窓会うどん・そばなどと組み合わせて食事をしている学生も見られ、学生からは「本当に助かりました。」「またやってほしい!」などの声があがっていました。



同窓会支援井提供の様子
(学内カフェ)

◆ 2020年度菩提樹賞受賞者

卒業式同日、学内において2020年度同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式を行いました。

この「菩提樹賞」は、卒業・修了生のうち、在学期間に学術・文化・スポーツ・ボランティア活動などの分野で顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生又は、課外活動団体を表彰し、学生生活の充実を資することを願って同窓会より贈るものです。

【2020年度受賞者の方々】

<文化・ボランティア分野>

高橋 るり さん(正宗学科卒)

「2019ミス・アースジャパン」に出場し、大学広報にも積極的に協力されました。

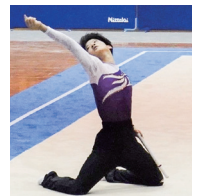


高橋るりさん

<スポーツ分野>

清村 斗希 さん(教育・心理学科卒)

男子新体操競技にて大会で入賞されるなど、優秀な成績を収めてこられました。



清村斗希さん

◆ 「キャンパス総合整備・新教室棟建築資金

募金寄付者 芳名板」設置

新教室棟「慶聞館」1階の学習支援室(ラーニングスクエア)横の通路に「キャンパス総合整備・新教室棟建築資金募金寄付者 芳名板」が設置されました。芳名板には、今回の建築資金としてご寄付を賜りました方の芳名や法人名、支部名が刻銘されております。

また、匿名希望の方々からも、多大なご寄付を頂戴いたしました。皆さまからの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。

現在のコロナ禍が収まりましたら、是非、学内見学にお越しください。



芳名板



慶聞館 1階

同窓会支部活動報告

◆ 鈴木大拙生誕150年 鈴木家の墓前で法要を勤める(金沢支部)

同窓会金沢支部では、毎年、同窓会本部と開催する「大谷大学公開講演会」や支部総会、懇親会などを通して、かつての学生時代のことや大学の現況について語り合い、同窓生同士の親睦を深めています。

また、金沢市の「鈴木大拙館」では毎年鈴木大拙の命日(7月12日)に金沢市野田山墓地にある鈴木家の墓前で法要を営んでいます。その法要は、大谷大学とのつながりから、金沢支部で勤めています。

鈴木大拙は、金沢生まれの世界的仏教哲学者で、多くの仏典を英訳するなど、仏教、特に「禅」を海外に広く知らしめました。1921年に大谷大学の教授に就任し、1960年までの約40年間教鞭を執りました。その間、東方仏教徒協会(The Eastern Buddhist Society, EBS)を設立し、英文雑誌『Eastern Buddhist』を創刊しました。今年、EBS設立100周年に相当します。また「妙好人」を発掘したことで知られています。

大拙生誕150年の昨年、新型コロナウイルスの感染拡大も心配されましたが、昨年も法要は営まれ、当日は木越渉支部長が調声し、木村宣彰鈴木大拙館館長(元大谷大学長)はじめ支部会員など関係者が参列し焼香しました。



鈴木家の墓前での法要の様子

2021年度の同窓会活動について

最新情報はこちらをチェック！

大谷大学同窓会



大谷大学同窓会では、長引く新型コロナウイルス感染症拡大を受け、4月の理事会、5月の総会を書面による会議とし、審議の結果、2020年度事業報告・決算、2021年度事業計画・予算、役員の変更等が承認されました。

例年、各地域支部に講師を派遣し開催している大谷大学公開講演会については、各支部への講師派遣を中止し、オンラインにて開催することが承認されました。また、例年、学園祭にあわせて開催しているホームカミングデーや全国を巡回して開催している大谷大学フェアの開催につきましても、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を勘案しつつ検討してまいります。

◆ 大谷大学公開講演会

オンライン配信については、7月～9月にかけて支部の行事として開催される場合は、各支部から案内があります。

なお、10月1日以降は、同窓会ホームページでも配信する予定です。

◆ 第25回ホームカミングデー

2021年11月13日(土)(予定)

※詳細は同窓会ホームページでお知らせいたします。

◆ 2021年度大谷大学フェア

北陸、九州、信越、中国・四国地区で開催予定

◆ 「谷大生応援プロジェクト」

コロナ禍で「地元へ帰省したいけど帰りにくい」、「旅行したいけど、このご時世では行けない」そんな思いを抱えている学生たちへの支援として、地域の名産品(長期保存が可能な物)を昨年に引き続き、募集します！

募集方法などの詳細につきましては、9月上旬に同窓会ホームページでご案内いたします。ご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

2020 年度大谷大学同窓会収支決算書

【収入の部】		【支出の部】	
科目	決算額	科目	決算額
1. 前年度繰越金	7,179,365	1. 事業費	9,134,652
2. 会費	23,490,000	本部事業費	6,164,885
会費(1)	1,200,000	支部事業助成費	1,540,000
会費(2)	22,290,000	同期会・OB会等開催助成費	50,000
3. 入会金	3,715,000	学生会助成費	0
4. 寄付金	539,890	新入会員歓迎費	1,379,767
5. 同窓会基金取崩収入	0	2. 刊行費	1,735,000
6. 雑収入	153,549	無盡燈刊行費	1,420,100
7. 同窓会運用資金	25,000,000	印刷製本費	314,900
合計	60,077,804	3. 事務費	3,361,219
		本部事務局費	7,681
		活動費	380,000
		通信費	2,973,538
		4. 旅費	50,096
		5. 会議費	8,600
		6. 委託費	2,153,365
		7. 雑費	212,532
		8. 同窓会基金繰入支出	64,496
		9. 同窓会活性化準備金	87,184
		10. 同窓会運用資金繰入支出	25,000,000
		11. 予備費	0
		合計	41,807,144

収入の部-支出の部= 18,270,660 (次年度繰越金)

2021 年度大谷大学同窓会収支予算書

【収入の部】		【支出の部】	
科目	予算額	科目	予算額
1. 前年度繰越金	18,270,660	1. 事業費	12,340,000
2. 会費	23,670,000	本部事業費	7,040,000
会費(1)	1,200,000	支部事業助成費	1,700,000
会費(2)	22,470,000	同期会・OB会等開催助成費	700,000
3. 入会金	3,745,000	学生会助成費	200,000
4. 寄付金	500,000	新入会員歓迎費	2,700,000
5. 同窓会基金取崩収入	0	2. 刊行費	2,224,000
6. 雑収入	144,749	無盡燈刊行費	1,460,000
7. 同窓会運用資金	25,000,000	印刷製本費	764,000
合計	71,330,409	3. 事務費	3,760,000
		本部事務局費	50,000
		活動費	380,000
		通信費	3,330,000
		4. 旅費	1,040,000
		5. 会議費	490,000
		6. 委託費	2,270,000
		7. 雑費	260,000
		8. 同窓会基金繰入支出	70,000
		9. 同窓会活性化準備金	1,500,000
		10. 同窓会運用資金繰入支出	25,000,000
		11. 予備費	22,376,409
		合計	71,330,409

◆ 2021年度役員一覧 (2021.5.19現在)

会長 佐賀枝夏文	常務理事 速水 馨	理事 藤原 憲	顧問 木越 康	常務理事 采澤 晃
副会長 柴田 達也	理事 奥村 豊	理事 村上 秀磨	常務理事 高井 康弘	常務理事 中島 弘喜
理事長 一楽 真	理事 加藤 隆昭	理事 和田 一丸	常務理事 岡本 学	理事 東館 紹見
常務理事 井上 恵二	理事 菅原 信顕	監事 長谷岡英信	常務理事 平野 寿則	
常務理事 高木 文善	理事 難波 明則	監事 藤坂 初裕	常務理事 山田 恵文	

同窓通信



ホームカミングデーからの挑戦

楠 喜依 (シアー株式会社)

在学中、放送局(サークル)に所属していた私は、毎年紫明祭の時にサンクンガーデンのステージで司会をしていた。恩師がステージ前を通り「あれ?先生、紫明祭中もお仕事ですか?」「今日はホームカミングデーなんよ」という会話をした事を記憶している。

卒業後、私が司会者としてホームカミングデーに参加し、恩師に再会できる日が来るとは思ってもいなかった。ましてこの日が私の人生を大きく変えることになるとは夢にも思っていなかった。

高校時代から「話すことを仕事にしたい」と思っていたものの、心のどこかで自分には無理だろうと諦めていた。アナウンススクールに通ったり、勿論アナウンサー試験も受けること無く一般企業へ就職した。卒業後すぐ関東で一人暮らしをし、同期にも恵まれ毎日がキラキラしていた。これはこれで自分の選んだ道を歩もう!と気持ちを切り替えることができた。しかし、年次を重ねるごとに「なぜあの時、努力しなかったのか、チャレンジしなかったのか」と、後悔ばかりが募るようになっていた。

ホームカミングデーの司会が終わった時「やっぱり、話すことが好き。もう1回チャレンジしたい!」と思い立った。今、挑戦しないとまた10年後、20年後、大きな後悔が襲ってくる気がしてならなかった。

その後、アナウンススクールや専門学校で発声やアクセントなど基礎から勉強をやり直した。とにかく、無我夢中で前のめり、第二の青春だった。

縁あってオーディションに合格し、現在、ラジオのコミュニティ放送でお喋りをしたり、話し方教室で朗読や発声など指導したりもしている。日々、勉強だ。

文章にすると美談のようだが、セカンドキャリア挑戦中も、現在においても、現実はなかなか大変だ。しかし、年齢を言い訳にせず、挑戦して良かった。オーディションに合格したこと以上に、挑戦したことが、自分の人生の幸福度に繋がった。

またホームカミングデーで恩師や同級生に再会出来る日を心待ちにしている。

(2008年度文学部文学科卒)



ホームカミングデーにて学生時代お世話になった先生と(本人右)



大谷大学指定推奨

プラーサーダOtani

大谷大学まで徒歩4分。
家具付きのシェアハウスです。



株式会社 **フラットエージェンシー** 北大路駅前店 TEL: 0120-44-0669

宅地建物取引業免許番号 京都府知事免許 (9) 第 7189 号 公益社団法人京都市宅地建物取引業協会 公益社団法人近畿地区不動産公正取引協議会加盟店 取引態様 < 貸主 >



同窓会支部だより



信濃学友会について

信濃学友会支部長 なりた さとる 成田 純

つい引き受けてしまった支部長ですが、本来、信濃学友会の支部長は、それなりの住職の方々が務めてこられました。たまたま、同期の柴田氏より頼まれて、引き受けてしまったのです。

しかし、この会は大谷大学同窓会長野県支部という名称ではなく「信濃学友会」なのです。

支部としての歴史は古く、大正時代の名簿には20名弱の方々が記載されています。それを見ると大谷大学を受験しただけの方や大学に寄附をされた方等々、少しでも繋がりがあれば会員となっていました。先代支部長の時から卒業生のみを会員としています。

私自身は、学生のころから先々代の支部長に声をかけて

いただき、飯山市に戻ってからも毎年、支部活動に参加をしておりますが、支部長としては旧態依然とした志向で続けている感があります。

現在、信濃学友会の会員数も350名以上と多くなりました。長野県内は南北に長く、また交通の便が悪いこともあり、県内全域で交流する機会も少なく、各会員の情報が不足している状況です。

抱えている課題として、まずは支部総会を開催しようにも会場費等の資金不足があります。次に情報収集の方法かと思えます。その対策としては、事務局の設置と簡単な会則が必要と考えています。

また、若い女性の会員数が増えていますので、公開講演会での講師の選択についても、これまでと異なる分野にも目を向ける必要があり、旧態依然とした考えでは難しいため、若い人に支部長をお願いする事も大切かと思っています。

今後どのようにして若い人に引き継ぐか、諸氏と相談して行おうと思っています。



響流十方は 飛驒にも届いています

飛驒支部事務局 くぼた じゅん 窪田 純

飛驒支部の「公開講演会」は、例年8月1日から5日までの「飛驒学場」期間中に開催しています。飛驒学場とは、約300年の歴史をもつ、飛驒一円の寺族(もちろん寺族以外の方の参加も可能です)にとって大切な学びの場であり、たくさんの方が集まります。公開講演会では、大学が設定された「統一テーマ」をもとに、現在私たちが抱える課題に触れたお話をいただき、大谷大学の卒業生という枠を超え、たくさんの方々に響いていると実感しています。

また、ご出向いただく先生には、大変ご負担をおかけしておりますが、公開講演会翌朝の「暁天講座」のご講話もお願いしております。6時30分からの勤行後のご講話ですが、100名近くの方が高山別院に足をお運びくださり、先生のお

話に熱心に耳を傾けてくださいます。

飛驒支部で開催する公開講演会や、翌日の暁天講座は、年によって平日の開催となるため、寺族ではない卒業生の方が集まりにくいという課題があります。しかし、一方で大きな意義も感じています。「大谷大学」という言葉や看板を伝えていく以上に、「大谷大学における学びや視座」に触れ直す場になっているからです。この学びや視座は、卒業生だけに響くことではなく、すべての人において共有できる響きを持っているのだと思います。

大谷大学が深く追究してきた人間としての学び、歩みは、すべての人に響いていく。大学名だけではなく、一人ひとりのうえに開かれている大学の門があることを、飛驒支部で伝えていかなければならないと感じています。



公開講演会の様子

支部長・事務局交代(同窓会本部 2020年4月2日以降、2021年4月1日現在掌握分)

○支部長交代

〈函館支部長〉

福島 憲成 2020.07.01付就任(前支部長 黒崎 昭明)

〈久留米支部長〉

大江 清志 2020.10.01付就任(前支部長 調 紀)

〈能登支部長〉

葛城 眞証 2021.04.01付就任(前支部長 奥村 文秀)

○支部事務局交代

〈尾張学友会支部〉

廣瀬 彰紀 2020.09.02付就任(前支部事務局 荒山 優)

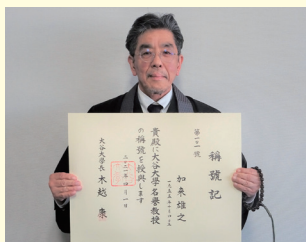
〈秋田支部〉

矢田 正朋 2020.09.11付就任(前支部事務局 高柳 信)

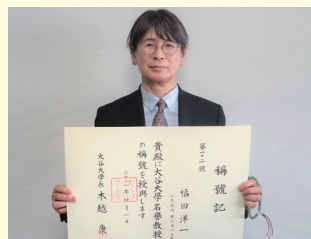


◆ 名誉教授の称号贈られる

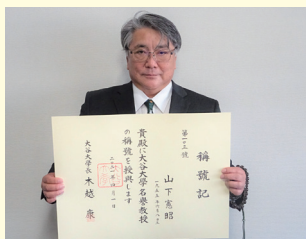
このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、大谷大学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生に贈られる名誉教授の称号が以下の3名の先生方に贈られました。授与式は2021年4月1日に学長室において行われました。(総務課)



加来 雄之 名誉教授 (真宗学)



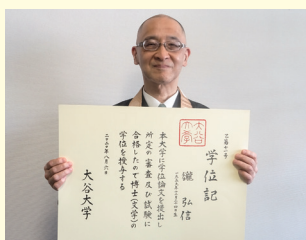
福田 洋一 名誉教授 (仏教哲学)



山下 憲昭 名誉教授 (社会福祉学)

◆ 籠 弘信 氏が、博士(文学)の学位を授与される

2020年8月6日、籠 弘信氏が学位論文「親鸞改名の研究」により、大谷大学から博士(文学)の学位を授与されました。(教務課)



籠 弘信 氏 (真宗学)

◆ 課程博士の学位を授与(2021/3/18 学位記授与)

2020年度は、博士後期課程修了者5名に「博士(文学)」の学位が授与されました。(教務課)



岩田 香英 氏 (真宗学)



常塚 勇哲 氏 (真宗学)



松岡 淳爾 氏 (真宗学)



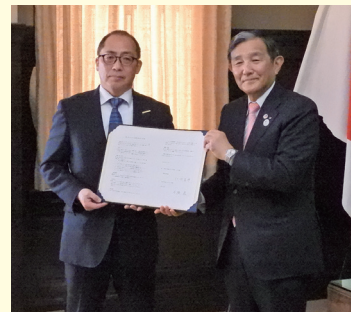
藤井 了興 氏 (真宗学)



ARILDII BURMAA 氏 (国際文化)

◆ 就職支援協定締結 ～Uターン就職を希望する学生への支援について～

大谷大学では、卒業後に地元へ帰って就職を希望する学生や、他の地域で就職を希望する学生への支援を拡大するため、2018年度までに石川県、滋賀県、京都府と就職支援協定を締結しました。その後、他の自治体とも協定締結に向けた相談を進め、2020年度は、福井県、長野県、福岡県、岡山県、和歌山県、鹿児島県、兵庫県と新たに締結しました。



就職支援協定締結の様子 (和歌山県)

新型コロナウイルス感染症の影響で、学生の就職活動は厳しい状況ですが、就職支援協定の締結により、さらに充実した就職支援を行ってまいります。

新型コロナウイルス感染症の影響で、学生の就職活動は厳しい状況ですが、就職支援協定の締結により、さらに充実した就職支援を行ってまいります。

(就職支援協定による取り組み)

1. 合同企業説明会などの就職関連イベントに関すること
2. インターンシップ(就業体験)の参加支援に関すること
3. 大谷大学内での説明会開催に関すること
4. その他、就職に関する学生への支援に関すること

就職支援協定を締結していない自治体においても、



学内でのUターン相談会の様子(岡山県)

厚生労働省のL/O活用プロジェクト(地方人材還流促進事業)と連携することで、学年を問わず支援を行っています。

(キャリアセンター)

◆ 大谷大学開学120周年ロゴマーク完成

1901年10月13日、東京巢鴨に移転・開校した大谷大学は、2021年度に開学120周年を迎えます。大谷大学の120年にわたる伝統を学内外にアピールするためのロゴマークが完成しました。今後、印刷物などに使用します。(企画課)



◆ 2021年度若葉祭開催される

4月10日(土)に2021年度の若葉祭が開催されました。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、若葉祭をはじめとした各種新入生歓迎企画が中止となりました。



新入生歓迎実行委員会

2021年度の開催にあたっては、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大により、新入生歓迎実行委員会の活動も制限される中、各団体ともメールやSNSなどを活用して準備を進めたことで、37団体もの参加があり、新入生に対して熱心に活動内容などのアピールを行っていました。

今年度の新入生歓迎実行委員会の委員長を務められた手島郁美さん(教育学科第3学年)は、「部室棟の利用が制限される中、先輩たちの手助けもあり何とか開催ができました。新入生も多くの方が参加してくれ、予想以上に盛り上がりほっとしました。」と、終了後の撤収作業の中で話していただきました。(学生支援課)

◆ 京都市とふるさと納税を活用した連携協定締結

大谷大学は、ふるさと納税を活用した大学・学生と地域のさらなる連携強化を図るため、京都市と連携協定を締結いたしました。



連携協定締結の様子

この連携協定は、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上に向けた京都市の新しい取り組みで、大谷大学は京都市が推進する「学まち連携大学」促進事業の第1期採択校として地域連携活動に積極的に取り組んでいる大学の1つとして調整が進められてきました。同窓生をはじめ、多くの方に本学の地域連携の取り組みを理解いただき、様々な協力をいただければと考えています。詳細については、下記URLをご確認ください。(地域連携室)

<http://www.mujiinto-otani.org/info/donate.html>



◆ 人事情報

(2020年5月1日～2021年4月30日)

執行部の交代

- 【研究・国際交流担当副学長】
江森 英世
- 【社会学部長】
野村 明宏
- 【国際学部長】
藤田 義孝 2021年4月1日付(各通)

所長等の交代

- 【真宗総合研究所長】
江森 英世
- 【人権センター長】
西尾 浩二 2021年4月1日付(各通)

定年退職

- 【教育職員】
加来 雄之(教授/文学部)
滝口 直子(教授/社会学部)
福田 洋一(教授/文学部)
山下 憲昭(教授/文学部)
林 正幸(准教授/文学部) 2021年3月31日付(各通)

契約期間満了による退職

- 【学習支援アドバイザー】
林 峰子 2020年9月30日付
- 【教育職員】
朝比奈覚順(特別契約教授/文学部)
岡部 茜(任期制講師/社会学部)
味村 考祐(任期制助教/文学部)
阿部 友香(任期制助教/文学部)
梶 哲也(任期制助教/文学部)
野末 幸子(任期制助教/文学部)
野村 実(任期制助教/文学部)

【事務系嘱託】

- 清水あゆみ(教育研究支援部)

- 林 容子(教育研究支援部)
- 水谷 英紀(教育研究支援部)
- 【校医】
小原 幸
- 【寮監】
本多 正弥(貫練学寮)
三村 翔子(自灯学寮)
- 【教職アドバイザー】
馬場 信行
- 【学習支援主任アドバイザー】
竹花 洋佑
- 【学習支援アドバイザー】
小川 直人
森 類臣
- 【地域連携アドバイザー】
山田 大地
- 【PD 研究員(真宗総合研究所東京分室)】
大澤 絢子 2021年3月31日付(各通)

依願退職

- 【教育職員】
斐 始美(任期制助教/文学部) 2020年6月30日付
- 【事務職員】
古角 智子(企画・入試部)
辻原 雅大(総務部) 2021年3月31日付(各通)

新規採用

- 【教育職員】
小野木 聡(任期制助教/文学部) 2020年9月1日付
- 【PD 研究員(真宗総合研究所東京分室)】
萩 翔一 2020年10月1日付
- 【教育職員】
岡部 茜(講師/社会学部)
本明 義樹(講師/文学部)
滝口 直子(特別契約教授/社会学部)
林 正幸(特別契約教授/文学部)
近江 望(任期制講師/教育学部)
許 燕華(任期制助教/文学部)

- 齋藤 雅哉(任期制助教/文学部)
- 中西麻一子(任期制助教/文学部)
- 平田 絵未(任期制助教/文学部)
- 深町 博史(任期制助教/文学部)
- 【事務職員】
北村 悠人(企画・入試部)
古賀友梨香(学生支援部)
西村友貴乃(教育研究支援部)
- 【事務系嘱託】
河崎 由佳(教育研究支援部)
渋谷 幸子(企画・入試部)
山下 晶江(教育研究支援部)
- 【校医】
誉田 芳孝
- 【学生相談員】
新美 秀和
- 【寮監】
中村 美沙(自灯学寮)
新田 真寿(貫練学寮)
- 【教職アドバイザー】
佐藤 真一
- 【学習支援主任アドバイザー】
味村 考祐
- 【学習支援アドバイザー】
梶 哲也
藤田 郁
- 【地域連携アドバイザー】
元井 雄大
- 【PD 研究員(真宗総合研究所東京分室)】
陳 宣聿 2021年4月1日付(各通)

昇格

- 【教授】
ダシュ ショバラニ(文学部)
脇坂 真弥(文学部)
采翠 晃(文学部)
- 【准教授】
コンウェイ マイケル J.(文学部) 2021年4月1日付(各通)



2021年4月 国際学部がスタートしました

大谷大学 国際学部では、留学で語学や文化理解を磨くことはもちろん、国際文化観光都市として世界中から人々が訪れる「京都」という地理を生かした「実践的な学び」を提供します。

外国語を「聞く」「読む」「話す」「書く」力に加え、国際人として必要な「人間・社会・自然環境」についての幅広い知識・知見を身につけ、京都、世界に飛び出し、文化的背景の異なる他者と自己への理解を深めながら、さまざまな課題を自ら見出し、多文化共生のための問題解決策を提案できる人物の養成を目指します。〈国際学部〉

コロナと過ごした1年

大谷大学教授(社会学) ^{たかい やすひろ} 高井 康弘



皆さん、いかがお過ごしですか？私のほうは定年まであとわずかとなりました。気が付けば周囲のほとんどの人は私より年下になり、ちょっと今浦島になった気にもなるものです。S、M、K、O…うるさ型の、しかし頼りになった年輩の先生方をキャンパスでおみかけする機会も減り、…、ということで、自身の研究をまとめつつ、研究室の後片付けをしながら、しみじみと過ごそうと思っておりました。ところが思いがけなく、またまた執行部に入ることになり、加えて、新型コロナウイルスが跋扈する事態となり、2020年度は当初考えていたのとは異なる展開になりました。大学はさまざまな人々が出会い、交流する場。そんな当たり前に思っていたことをどう継続していくか、今まで当然のようにやってきた教育研究活動や諸行事をどうしていけばよいのか。外気を通した会議室でマスク面の教員と事務方が、日々モグラたたきの如く、対策に試行錯誤。WEB授業、課外活動の自粛などを打ち出さざるをえませんでした。新設社会学部も3年目を迎え、学外でのフィールドワーク授業が本格的に展開するはずだっただけに、本来の企画を実行できないのは残念でした。でも、特に後期は大学として安全対策を整え、大半の先生方が授業を対面で開始されました。学生たちは感染予防に気を付けながら、今までより楽しそうに友だちと交流している様子でした。学食利用制限下、お弁当を持ち寄ってキャンパスのあちこちで、車座や横並びになって食べている学生たちをみて、なかなかやるなと思いました。卒論追い込み期、メール添付ファイルでの添削は、ゼミ生がオンラインに慣れたせいも、例年より円滑にできました。執行部室のある博綜館4階のベランダからは体育館越しに比叡山の山容が望めます。ベランダ床には、楓のタネが結構溜まっています。羽が付いているので、放つとくるくる舞って、時に意外に遠くまで飛んでいきます。タイヤラオスには当面渡航できそうもないので、こんなことをして気分転換しています。

現役教員からのお便り

世界と「つながる」可能性 大谷大学准教授(英文学) ^{みうら よしか} 三浦 誉史加



コロナ禍に見舞われた2020年度、前期は初めて経験するオンライン授業に、試行錯誤を繰り返しました。海外との往来が閉ざされたことに、もどかしさを覚える日々でした。その一方で、イギリス文化ゼミでは、イギリスに在住する小学校の先生にオンラインで英語インタビューを行い、コロナ禍における教育のあり方について、比較文化の観点からの議論が盛り上がりました。いながらにして海外の人々とつながる楽しさを知ることができ、オンラインの新たな可能性を感じました。

後期には対面授業が再開。パソコンの画面というフィルターを外して学生さんの笑顔を直接目にできる喜びは何物にも代えがたく、空間を共有し、微細な表情の変化やしぐさなど、体全体でキャッチする情報が、コミュニケーションにいかに重要であるかに気づかされました。

明けない夜はなく、必ず克服されるであろう現在の状況。コロナ終息後にも活かせる新たなツールを獲得し、教育において大事なことは何かという問いに向き合い、学びを得た一年でした。

2021年度より、文学部国際文化学科は国際学部となり、身の回りの国際化に対応できる人、多文化共生社会を作る人を育てることを目指します。海外に加えて京都も学びの場とするフィールドワークを取り入れると共に、新設科目の一つである「グローバル・キャリア論」では、海外の会社とオンラインでやり取りを行う授業が予定されています。コロナ禍で気づいた対面とオンラインの双方の良さを駆使して、世界の人々とつながる学びを深めていきたいと思います。

教育振興資金寄付者（敬称略）【2020年3月1日～2021年3月31日】

大谷大学では、教育研究環境の一層の充実を図るため、「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。ご寄付いただいた資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。

2020年3月1日から2021年3月31日までの間に、ご寄付をいただきました方々は次のとおりです。

また、本学では引き続き募金活動を行っております。ご寄付の方法につきましては、大谷大学ホームページをご確認ください。今後とも、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2020年3月1日～2021年3月31日 寄付者総数 62件
寄付金総額 10,982,000円

個人

相場 久男（群馬県） 青藤 忍（愛知県） 浅田 純（長崎県） 岩田 理恵（三重県） 大須賀光俊（静岡県）
大森 昌光（秋田県） 加藤 隆至（広島県） 門脇 道晴（島根県） 小谷 延人（京都府） 兒玉 康昭（広島県）
坂元 微敏（北海道） 澤柳 哲人（静岡県） 末吉 満法（鹿児島県） 杉浦 圭（愛知県） 辻井 栄作（滋賀県）
筒井 浩也（滋賀県） 徳山 隆秀（新潟県） 中条 伸介（兵庫県） 中田 康成（山梨県） 中原 浩治（兵庫県）
西野三賀子（兵庫県） 西本 学（和歌山県） 長谷川 誠（愛知県） 菱田 隆（大阪府） 藤原 久美（京都府）
本多佐保美（千葉県） 本多 益（三重県） 三根生秀喜（愛媛県） 村林 勉（栃木県） 安田 智之（京都府）
匿名 22件

法人・団体

雲澤寺（愛知県）
有限会社石間企画事務所 代表取締役 石間 裕（東京都）
キノビクス株式会社 代表取締役 齊藤 隆夫（滋賀県）
椋山合資会社 代表社員 椋山 融子（東京都）
株式会社フラットエージェンシー 代表取締役 吉田 創一（京都府）
大谷大学同窓会岩手支部（岩手県）
匿名 4件

（本寄付は学校法人真宗大谷学園に対する寄付であり、税法上の優遇措置を受けることができます。）

【寄付のお申し込み／お問い合わせ先】大谷大学教育振興資金事務局

京都市北区小山上総町（大谷大学校友センター内）TEL 075-411-8124

大谷大学寄付



OTANI古本Project

ヒロガル×ツナガル 学生支援

OTANI UNIVERSITY USED BOOK DONATIONS



2018年6月から2021年4月（※）までに3,415冊（64,246円分）の本をお送りいただきました。誠にありがとうございます。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

（※）新型コロナウイルス感染症のため、2020年5月以降の取り引きを一旦中断していました。現在は再開しています。



どのような仕組みですか？

古本を寄付

古本の集荷・仕分け・買取

大学図書購入費用等へ

同窓生のみなさま

株式会社バリューブックス



以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

● ISBNのない本

ISBN
見本



ISBN978-4-1234-5678-9

9784123456789

- 百科事典 ● コンビニコミック
- 個人出版の本 ● マンガ雑誌 ● 一般雑誌
- 2010年より以前に出版された本

※「おためし査定」で査定額が出るものはご寄付いただけます。

このプロジェクトは、読み終えた本、不要になった本(DVD・CD・ゲームを含む)を寄付することで、寄付された書籍は、社会へ還元され、いただいた寄付金は大谷大学在学生在が選ぶ大学図書(学生選書プロジェクト)の本の購入費用となる寄付事業です。

古本は、郵送または大学図書館設置の回収ボックスで回収可能です。この機会にぜひ、「OTANI古本Project」にご協力ください。



手続きの方法は？

- ①2010年以降に出版された書籍が確認する。
（※2010年より以前の書籍は「おためし査定」をする。）
- ②書籍をダンボールに入れる。
- ③WEBで集荷を依頼する（※5冊以上であれば送料無料です。）
- ④査定結果についてご本人に報告（買取金額が大学へ寄付されます。）



おためし査定はこちら

詳しくは WEBをご覧ください。

大谷大学古本募金

お問合せ先

大谷大学教育振興資金事務局（大谷大学校友センター内）
TEL：075-411-8124（平日9：00～17：00）

お申込みに関してのご注意

買取額は市場価値等を考慮して(株)バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや、値段がつかないこともございます。お申込みの際は、その点をご理解くださいますようお願いいたします。



岩田 宗一名誉教授を偲んで

名誉教授の岩田宗一先生が、2020年6月8日、86歳でご逝去された。10年前から大病を患われ、ご家族の献身的な支えのもと、ご自宅で療養されておられた。お元気と伺っていたのに、突然の悲しい知らせに驚き、胸が痛んだ。

先生は、京都市立音楽短期大学(現京都市立芸術大学)の音楽科をご卒業後、佛教大学で学ばれ、1966年4月から新設された大谷大学短期大学部幼児教育科に専任講師として着任し、助教授、教授と昇格され、1999年に退職された。33年間幼児教育科で教鞭をとられた。

先生は、真面目で穏やかで優しいお方だった。学科主任を務められた時、堂々と任務を果たされ、音楽担当者としては、「大谷式ピアノ教本」に基づいて信念をもって授業を進めておられ、面倒見の良さから学生たちに大変慕われていた。

幼児教育科の音楽ゼミでは、毎年各地の祭り見学をされていた。私も同行していたが、特に富山県の五箇山こきりこ祭りに行った時、先生は学生たちと一緒に、菅笠を被った踊り手の後に並び、ぎこちない踊り方だったが楽しそうにされていたことが印象に残っている。

先生の専門は、音楽学と仏教音楽である。先生は、日本に於ける声明研究者の第一人者として名を掲げておられる。1982年フランスで開催の「世界宗教シンポジウム」に参加され、ドイツのケルンを拠点に多くの教会、修道院での儀式を研究し、調査されてこられた。この体験を綴った先生の著書「声明は音楽のふるさと」が刊行されている。

今までのご指導に感謝申し上げます、先生、どうぞ安らかに眠ってください。

元大谷大学教授 豊住 征子



長崎 法潤名誉教授を偲んで

2020年7月1日、長崎法潤先生がお亡くなりになられた。享年86歳であった。

先生は、1934年4月1日新潟県西頸城郡、現在の糸魚川市の真宗大谷派の寺院でお生まれになった。1953年に大谷大学文学部に入学されてから、1999年に大谷大学を定年退職されるまで約半世紀の間、大谷大学で人生を過ごされた。大谷大学大学院文学研究科仏教学専攻修士課程、さらに同博士課程へ進学され、1959年から1964年までインドのナーランダール・パーリ研究所へ留学された。帰国後1964年に大谷大学助手となられ、専任講師、助教授、1979年に教授となられた。1986年には『ジャイナ認識論の研究』という題目で文学博士の学位を大谷大学から授与された。1999年に定年退職され、大谷大学名誉教授となられた。

先生のご専門は、パーリ語仏典とジャイナ教の認識論である。インド留学中は故サトカリ・ムーケルジー先生の指導のもとで、ダルマキールティやジャイナ教の論理学の研究をされていた。1988年に平楽寺書店より出版された『ジャイナ認識論の研究』は、先生の博士論文が元になっている。先生が扱われた12世紀の認識論・論理学のジャイナ教テキストの解読研究は画期的な業績であった。先生の研究方法は、かっちりとした文献学であった。テキストを正確に校訂し、深く読み込み、意味が通るように訳出し、縦(時代)と横(他学派)が意識された研究であった。

長崎法潤先生、長い間お世話になりました。本当にありがとうございました。

大谷大学教授 山本 和彦



訓覇 曄雄名誉教授を偲んで

訓覇曄雄先生は1934年に三重県の真宗寺院の家にお生まれになり、1963年に京都大学大学院文学研究科博士課程を満期退学された後、1965年に本学の専任講師として着任された。その後、本学において35年にわたり教鞭を執られた。

先生の専門は西洋近代哲学であり、とりわけカントからヘーゲルにいたるドイツ観念論については日本を代表する研究者であった。広く「国家と宗教」にかかわる諸問題を主要なテーマとして研究を続けられ、「政教分離」、「宗教と教育」、「知と信」といった問題を近現代哲学の文脈において、さらには仏教思想との連関において追究された。

大学運営においては、学監・文学部長、大学院文学研究科長、学長といった要職を次々に務められ、研究の成果を実際の宗教学の運営に生かされた。

教師としての先生は茶目っ気があった。そしてなにより気づかいの人であった。先生のこの気づかいは終生変わることなく、一度覚えたことは忘れない記憶力でおそるべき数の人のことを心配しておられた。

晩年の闘病の際、先生は病床を見舞うことをなかなかお許しにならなかった。もうそれほど長くないとなったとき、私は許しを得て病床を見舞った。先生は明晰であった。私は先生が心配しておられる人たちのこと、大学のこと、哲学科のことを話した。そして「もう心配しないでください」と伝えた。その2日後、2020年7月4日に先生は逝去された。85年のご生涯であった。

大谷大学教授 村山 保史



鍵主 良敬名誉教授を偲んで

2020年7月10日、鍵主良敬先生がご逝去された。私にとっては学部からの恩師であり、同時に父親のような方であった。先生の最近の言動は生死を超越したご様子だったので、悲しみというよりは、もう先生の肉声を聞くことはできないということが私の正直な感慨である。

先生は昭和8年(1933)北海道生まれ、昭和27年(1952)大谷大学文学部に入学。その後、仏教学を専攻され、山田亮賢先生の下で『華嚴経』並びに中国の華嚴思想を中心に研究された。昭和33年(1958)仏教学研究室嘱託を皮切りに職歴を重ねられ、昭和53年(1978)教授、平成11年(1999)定年退職。その間、学生部長・大学院文学研究科長をはじめとする多くの役職を歴任された。

先生の恩師である山田亮賢先生は、本学の清沢満之、佐々木月樵、曾我量深、金子大榮といった先生方の学び方・生き方を深く尊敬され、それを継承し体現する先生であった。鍵主先生はそれを真正面に受けられ、華嚴・唯識思想研究の一方で常に曾我量深先生の思想を念頭においておられた。晩年は曾我先生の法蔵菩薩論の探求に命を掛け、遺稿ではそれを「生きてまします法蔵菩薩」という言葉で表現されている。これは曾我先生の「如来表現の範疇としての三心観」という如来観を鍵主先生自身の実存において再表現されたものであると思う。そして遺稿には未解決の課題がいくつも示されている。それは私たちに与えられたこれからの課題である。先生、私たちは精進してまいります。本当にありがとうございました。

大谷大学名誉教授 織田 顕祐



名畑 崇名誉教授を偲んで

2020年8月27日、本学名誉教授名畑崇先生が逝去された。満87歳でいらっしゃった。ご高齢の故もありご入退院を繰り返されてはいるがお元気でいらっしゃると伺い、折しも新型コロナウイルス感染症の流行と厳しい残暑のさ中、御身体を案じていた矢先の御訃報であった。

先生は、1933年7月6日のお生まれで、大谷大学にて藤島達朗先生に師事され、日本古代、中世仏教史を中心に研究を進められた。その内容は、古代以来の大乘菩薩戒の展開から各時代の真宗史に及ぶ広汎なもので、緻密かつ着実な実証と仏教史に対する広く深い識見に裏付けられた、研究史上不朽の価値を有するものばかりである。名著『本願寺の歴史』をはじめ、二度お務めになられた真宗大谷派安居の本講における講本等の高著に示された見解は、真宗・仏教の歴史を学ぶ者の燈炬として永く此界を導き続けるものである。

先生は、そのご生涯を、大谷大学における同学の学生・教職員、そしてご自坊養泉寺のある美濃・郡上のご門徒、地域の方々と共に歩むことに尽くされた。警咳に接させていただいた者にして、その優しいお心と、深い配慮に基づいた的確なご指導を胸に刻まなかった者はいないであろう。今はただ、み光のうちに先生のご尊顔、ご指導を仰ぎつつ、共に歩んでまいりたいと念じるばかりである。

ご葬儀の当日は、お御堂やお庭に爽やかな風が吹き渡り、空には白い雲が浮かんでいた。皆様と共に参列しつつ、明宝の山の緑、青空の中に、微笑んでいらっしゃる先生のお姿を仰いだよう感じられた。

大谷大学教授 東館 紹見



中川 皓三郎先生を偲んで

中川先生が、2020年10月20日に、ご逝去された。享年77歳であった。2014年に帯広大谷短期大学の学長職を辞してからは、時々不調を訴えていた。特に最近には床に就くことが多くなり、亡くなる1カ月前には、一時危篤になったと奥様から知らせを受けた。その時には、私も覚悟を決めていた。しかし実際に訃報を受けた時には、体中から一遍に力が抜けたようであった。

私の最初の教師修練は故平野修先生の指導を受けたが、最後の修練は中川先生の指導を頂いた。その縁もあってそれ以降の学生生活は、いつも三人で行動した。お二人は博士課程の同級生で5歳も年上だったので、学部の私から見れば、学力から信心の確かさまで雲の上の人で、いつも憧れの目標であった。

平野先生は『浄土論註』や『教行信証』を、父親のように厳しく教えてくれた。いつも怒られている私を可哀そうに思ったのか、中川先生は決まって「腹は減ってないか、金はあるか」と、母親のように慈しんでくれた。この二人が同じ信心を生きる法友なのだから、『教行信証』の実際面は何か(学問と生活)」という私の真宗学の課題は、この頃、身に染み込んだのであると思う。

その大切な中川先生が長年実績を積んだ大谷専修学院から、1998年4月に大谷大学短期大学部仏教科の専任教員として赴任してくださった。そこは仏教の実践の場だから、先生は大いに本領を発揮されて、沈みがちな学生を明るく自信に満ちた学生へと導いた。私は、無類の明るさに輝く多くの学生を、今でも忘れない。私の中川皓三郎先生は、法身の親鸞聖人と同じように、いつまでも私の中で生きている。先生、本当にありがとうございました。

大谷大学名誉教授 延塚 知道



泉 恵機先生を偲んで

泉恵機先生が2021年4月17日(土)にご逝去された。法名は「釋恵機」、77年の御生涯であった。

先生は大谷大学大学院修士課程(真宗学専攻)を出られた後、長らく真宗大谷派の同和推進本部にお勤めになり、人権問題に正面から取り組んでこられた。1986(昭和61)年4月、大谷大学の人権教育推進のために専任講師として着任された。その後、同和教育資料室の任にも就かれた。

その頃、差別落書きが学内で発見されたことから、大学は差別問題の学習を繰り返していた。にもかかわらず、1986(昭和61)年1月に、大学内で差別ピラ事件を引き起こしてしまった。先生は先頭に立って対応に当たるとともに、問題の本質がどこにあるかを深く見つめていかれた。

それが一つの形をとったのが、『大谷大学における同和問題学習の課題』である。これは「水平社宣言」を基盤に据えつつ、人間解放の視点を親鸞に学ぶという大谷大学における人権学習を方向づけるものであった。現在の全学あげての人権問題学習の取り組みも、この願いを受け継いでいる。

先生は若い頃からアイヌの人々との交流を進めてこられた。また、大逆事件に関わったとして罪をきせられた高木顕明の復権にも尽力された。それらを通して、いつも「差別している私」を見つめることの大事さを教えてくださった。単に「差別してはいけない」と繰り返すだけでは差別はなくなれないという人間の問題を見据えておられたからに違いない。先生、本当にありがとうございました。

個人的な思い出になるが、先生はマムシ取りの名手だったようで、「一楽くん、マムシ酒のむ？」と微笑みながら勧めてくださったお顔が忘れられない。

大谷大学教授 一楽 真

()内は最終卒業・修了年度(敬称略)
年月日はご逝去された日付
(逝去日・五十音順)

敬弔 先生のご功労を偲び、謹んで 哀悼の意を表します。

※同窓会本部 2021年3月31日現在
掌握分

増田 悟	文学部(1979)	2006.09.26	松下 忍	博士(1985)	2020.04.06	芳野 章真	文学部(1970)	2020.07.10
藤田 研英	大学部(1942)	2014.10.06	大桑 齊	博士(1966)	2020.04.14	山田 聖史	文学部(1982)	2020.07.13
橋本記世子	文学部(1972)	2017.04.28	石田 盛典	文学部(1972)	2020.04.25	浅井 令雄	文学部(1958)	2020.07.21
桑 信一郎	文学部(2000)	2019.09.01	福谷 祐恵	大専門(1950)	2020.05.01	源 英信	文学部(1956)	2020.08.06
武田 真輝	文学部(2013)	2019.11.16	山田 知子	会友	2020.05.03	橋本 敏明	短期(1970)	2020.08.10
林山 義丸	修士(1977)	2019.08.26	寺山 寛	文学部(1954)	2020.05.04	桑守 研映	文学部(1964)	2020.08.11
松本 成美	文学部(1972)	2019.09.07	土居 文雄	文学部(1975)	2020.05.04	杉浦 俊丸	短期(1953)	2020.08.11
梶 正巳	文学部(1972)	2019.09.24	柴田 悟	博士(1961)	2020.05.07	安藤 昭	大専門(1947)	2020.08.14
日野 康昭	文学部(1960)	2019.10.06	中村 薫	博士(1975)	2020.05.08	後藤 一	文学部(1968)	2020.08.15
永山 了賢	文学部(1956)	2019.11.07	竹村 義弘	文学部(1978)	2020.05.14	中津 功	博士(1968)	2020.08.16
森 信順	大専門(1943)	2019.12.03	樋口 千里	短期(1955)	2020.05.14	岩坂 賢龍	文学部(1956)	2020.08.21
石動 準	文学部(1953)	2019.12.05	藤永 五雄	文学部(1982)	2020.05.16	楠 親之	文学部(1959)	2020.08.24
広瀬 巧	文学部(1952)	2019.12.05	藤永 旭温	文学部(1944)	2020.05.16	名畑 崇	博士(1960)	2020.08.27
藤岡 仁	文学部(1956)	2019.12.06	宇都宮 観周	大学部(1953)	2020.05.18	真木 康則	文学部(1970)	2020.08.27
那須 勇精	文学部(1959)	2019.12.10	寺西 宣明	大学部(1952)	2020.05.21	鈴木 孝行	文学部(1958)	2020.08.28
山本 暎俊	文学部(1958)	2019.12.18	西野 哲夫	文学部(1980)	2020.05.22	渡辺 啓義	大学部(1947)	2020.09.02
広岡 聖知	文学部(1969)	2019.12.20	井上 良	文学部(1955)	2020.05.24	中野 義晃	文学部(1957)	2020.09.09
井上 恵樹	博士(1974)	2019.12.21	片桐 昭雄	修士(1957)	2020.05.29	小塚 芳純	短期(1953)	2020.09.13
鈴木 現秀	文学部(1970)	2019.12.26	北畠 和美	文学部(1973)	2020.06.06	法岡 龍夫	文学部(1955)	2020.09.15
鬼頭 護	文学部(1959)	2020.01.04	岩田 宗一	会友	2020.06.08	武種 晃	文学部(1961)	2020.09.24
渋谷 円	文学部(1964)	2020.01.07	市川 恵温	文学部(1963)	2020.06.13	竹花 恵信	短期(1967)	2020.10.02
長谷 教信	文学部(1957)	2020.01.11	桑野 湛然	短期(1953)	2020.06.13	松下 晃建	文学部(1960)	2020.10.03
三浦 教照	大専門(1944)	2020.01.15	藤林 新英	文学部(1956)	2020.06.15	酒井 恵照	短期(1951)	2020.10.04
鉾根 慶精	短期(1955)	2020.01.16	菊池 宣治	文学部(1975)	2020.06.16	山内 紀元	短期(1956)	2020.10.04
館 行環	文学部(1963)	2020.01.22	本田 隆志	文学部(1999)	2020.06.21	鳳至 法英	文学部(1958)	2020.10.09
小川 清	文学部(1955)	2020.02.03	英 諦爾	文学部(1966)	2020.06.24	藤永 俊洸	修士(1968)	2020.10.09
菊香 順信	文学部(1961)	2020.02.16	土方 慶	博士(1978)	2020.06.24	大森 怜	短期(1953)	2020.10.13
神谷 信明	文学部(1964)	2020.02.18	本多 法	短期(1971)	2020.06.24	神涼 昭夫	短期(1980)	2020.10.15
菅原 廣威	大学部(1947)	2020.02.26	品川 芳信	短期(1960)	2020.06.28	中川 皓三郎	博士(1974)	2020.10.20
野村 俊明	大学部(1951)	2020.03.02	石神 明	文学部(1963)	2020.06.29	松本 昭	大学部(1950)	2020.11.03
唐川 光世	文学部(1980)	2020.03.03	長崎 法潤	修士(1958)	2020.07.01	茨田 通武	大学部(1952)	2020.11.30
佐々木五六	修士(1978)	2020.03.09	濱畑 健	文学部(2005)	2020.07.01	安田 花	文学部(2019)	2020.12.02
穴太 公波	大専門(1941)	2020.03.10	窪木 憲祐	文学部(1955)	2020.07.02	狐野 利久	修士(1958)	2021.01.01
大中臣 春樹	文学部(1972)	2020.03.13	訓覇 曄雄	会友	2020.07.04	三本 昌之	修士(1982)	2021.01.14
有馬 行之	修士(1969)	2020.03.18	大塚 充	文学部(1981)	2020.07.10			
原田 祐章	文学部(1956)	2020.04.06	鍵主 良敬	博士(1960)	2020.07.10			

同窓会費の納入について(協力ご依頼)

同窓会は、同窓の皆さまにご納入いただく「**同窓会費(終身会費と年会費)**」と「**寄付金**」を活動資金として事業を行っています。同窓会活動にご理解とご支援を賜り、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

<会員区分について>

卒業年度により「**会員区分**」が異なります。ご自身の会員区分をご確認いただき、「**同窓会費(終身会費と年会費)**」または「**寄付金**」のご納入をお願いいたします。

なお、同窓会報『無盡燈』の宛名ラベルに所属の会員区分が記載されています。

会員区分	ご依頼内容
一般会員 ①1990年度以前の卒業・修了生のうち、「終身会員」ではない方	同封の振込取扱票(振込手数料無料)を使用し、以下の[A] [B]のいずれかの方法により、会費納入をお願いいたします。 【A】毎年、「 年会費 3,000円 」を納入する。 【B】「 終身会費 30,000円 」を納入し、終身会員に変更する。 振込取扱票を使用されない場合は、以下の口座に振込をお願いいたします。 <同窓会費専用 振替口座(ゆうちょ銀行)> 口座番号 01020-9-20542 加入者名 大谷大学同窓会本部
終身会員 ①1990年度以前の卒業・修了生のうち、「終身会費 30,000円」を納入した方 ②1991年度以降の卒業・修了生のうち、卒業・修了年次の学費納入時、「終身会費30,000円」を納入した方	同封の振込取扱票(振込手数料無料)をご利用いただき、寄付金の納入に、ご協力をお願いいたします。

卒業後も大学を利用しよう！

卒業後も、大学で利用できるサービスがあります。



図書館・博物館のご利用

同窓生は、大谷大学の図書館、博物館(特別展無料)を利用することができます。ただし、図書館の利用には、利用証申請手続きが必要です。

詳細については、大学ホームページをご確認ください。

▶ [大谷大学図書館](#)

▶ [大谷大学博物館](#)

※現在、新型コロナウイルス感染症により利用制限を設けています。詳細は、大学ホームページをご確認ください。



ご住所の変更連絡

同窓会本部では、同窓会員の住所・氏名を管理しています。会報誌、同期会等各種郵送物の宛先となりますので、氏名・住所に変更がある場合は、同窓会本部へご連絡または、以下のメールフォームをご利用ください。

大谷大学ホームページ 会員の住所変更
<http://www.otani.ac.jp/kouyuu/nab3mq000005lgd2.html>



同期会、OB・OG会の開催について

詳細は、22ページをご確認ください。



各種証明書の申込み

証明書等の発行については、お電話または窓口で申し込むことができます。発行には手数料が必要となります。

詳細は大学ホームページをご確認ください。



▶ [大谷大学各種証明書](#)



ご結婚のお知らせ

同窓会員がご結婚される際には、同窓会より祝電をお送りします。また、同窓会報『無盡燈』にてご結婚のご報告をさせていただきますので同窓会本部(TEL: 075-411-8124)へご一報ください。

大谷大学内で仏前結婚式

大谷大学の尋源館2階にある尋源講堂で、仏前結婚式を行うことができます。

尋源館は登録有形文化財として登録されています。思い出の大学での結婚式をお考えの際は相談ください。



▶ 仏前結婚式の問合せ先

大谷大学総務課 TEL: 075-411-8163

同期会／OB・OG会 開催について

同期会、OB・OG会開催にあたり、同窓会本部では以下のサポートを行っています。開催の際はぜひご連絡ください。
(※以下のサポートは、対象者すべての方への案内(例：ゼミ全員に案内)が条件となります。)

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み、同期会等の受け付けを中止しています。
再開については同窓会ホームページをご確認ください。

Support 1 大学施設の利用・見学ができます。

- 学内施設または湖西キャンパスセミナーハウスで開催ができます。
 - 学内でのケータリングが可能です。
- ※希望される場合は、日程等を決定する前に、同窓会本部へご相談ください。学内見学も随時受付けています。

Support 2 連絡用名簿・宛名ラベルの提供ができます。 ※申請書受付後、提供までに1週間～10日程かかります。

Support 3 ホームページ「無盡燈」に開催告知を掲載します。

Support 4 開催助成費(1万円/2021年6月現在)の補助を行っています。

- 通信費の一部として補助を行っています。一定の条件がありますので、詳細は同窓会本部までお問い合わせください。

Support 5 写真を掲載し、ホームページ「無盡燈」には、開催報告(写真およびコメント)の掲載をします。

開催スケジュール

- ① おおよその開催日・開催場所を決定。
↓
- ② 同窓会本部へTELまたはメールで連絡。
★幹事名、「同期会開催届」の送付先、名簿・宛名ラベルの必要有無を連絡してください。
↓
- ③ 「同期会開催届」を開催1ヵ月前までに提出。
★同期会、OB・OG会では、対象者すべての方に案内(例：ゼミ全員、OB・OG全員に案内)を行ってください。
↓
- ④ 開催助成費(1万円)を幹事へ送付(現金書留)。
↓
- ⑤ 開催当日
★開催報告用に、集合写真を撮影してください。
↓
- ⑥ 開催後、1ヵ月以内に同窓会報『無盡燈』掲載用の「集合写真」、「コメント(200文字以内)」を同窓会本部へ提出。

広 告
募 集

同窓会報『無盡燈』広告掲載について

およそ39,000人(2021年4月現在)の同窓生に向けて、お店の紹介などの広告を掲載しませんか。掲載枠の種類は以下のとおりです。

- 2枠(タテ60mm×ヨコ180mm) 50,000円(税込)
- 1枠(タテ60mm×ヨコ90mm) 30,000円(税込)

※掲載ページの指定はできません。

<お問合せ先>

大谷大学同窓会本部(大谷大学校友センター内)

開室時間 9:00～17:00(11:30～12:30 土・日・祝のぞく)

TEL 075-411-8124 FAX 075-411-8157 E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

goods

大谷大学オリジナルグッズ

購入を希望される方は、大谷大学内Yショップまで、ご連絡ください。
地方発送等も承ります(送料別)。

- ハッ橋詰め合わせ
(16パック・48枚入・大箱)
1,080円(税込)
(賞味期限：約4ヶ月)



- オリジナル珈琲(10袋入)
1,200円(税込)
(賞味期限：約1年)



- ハッ橋詰め合わせ
(6パック・6枚入・小箱)
270円(税込)
(賞味期限：約4ヶ月)



- 瓦煎餅(6パック・18枚入)
860円(税込)
(賞味期限：約3ヶ月)



- 三笠
(粒あん3個・抹茶あん2個入)
1,080円(税込)
(賞味期限：約2週間)



- オリジナルピンバッジ
800円(税込)



Yショップ 営業日：授業期間中の8：00～18：00(※土・日・祝を除く)
〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学内 TEL 075-432-7277(直通) E-mail aim2341@aimservices.co.jp

goods

同窓会オリジナルグッズ

購入を希望される方は、大谷大学同窓会本部まで、電話、E-mail、FAX又は郵送にてお申込みください。
地方発送等も承ります(送料別)。

- オリジナル名刺入れ
定価 3,000円
→旧大学ロゴ使用のため、
300円(送料別)



- オリジナルブックカバー
定価 3,000円
→旧大学ロゴ使用のため、
300円(送料別)



- オリジナル念珠・念珠袋
男性用・女性用
各3,000円(送料別)



- その他グッズもあります。
同窓会ホームページ「無盡燈」
をご確認ください。



http://www.mujiinto-otani.org/use_facilities/index.html

大谷大学同窓会本部 〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
TEL 075-411-8124 FAX 075-411-8157 E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

goods

ミュージアムグッズ

博物館が所蔵している貴重な資料をデザインしたグッズを販売しています。各種行事等にご利用ください。
地方発送等も承ります(送料別)。下記以外にもグッズの種類は多数ございます。
詳細は大学ホームページで確認ください。http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

- クリアファイル
左より：貝葉布、延寿命除苦観音菩薩像(敦煌画模本)、
燈指因縁経(神護寺経)、尋源館をデザインに使用
1枚 150円(4種類お買い上げで500円)



- トートバッグ
40cm×30cm×8cm
(中国古印をデザイン)
1個 1,500円



- ミニタオルハンカチ
打敷をデザインに使用 1枚 400円
(2枚以上お買い上げで、2枚目から350円)
プレゼント包装にできます
(ケース 1枚 50円)



- ミニ便箋
貝葉資料を包装していた
更紗よりデザイン
赤・青 各色
1冊 350円



大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8483

2021年度 大谷大学博物館 開館情報

▶ 夏季企画展 畠中光享 東本願寺御休息所襖絵完成記念 釈尊への憧憬

会期：2021年6月8日(火)～7月31日(土)

休館日：日曜日・月曜日※ただし6月21日(月)は開館 観覧料：無料

▶ 秋季企画展 大谷大学博物館の逸品 重要文化財「後白河院庁下文」

会期：2021年9月7日(火)～9月25日(土)

休館日：日曜日・月曜日※ただし9月20日(月)は開館 観覧料：無料

▶ 特別展 東本願寺と京都画壇(仮)

会期：2021年10月12日(火)～11月28日(日)

休館日：日曜日・月曜日※ただし10月25日(月)・11月28日(日)は開館

観覧料：一般・大学生500円、小・中・高校生無料

▶ 冬季企画展 京都を学ぶ(仮)

会期：2022年1月7日(金)～2月12日(土)

休館日：日曜日・月曜日※ただし1月17日(月)は開館 観覧料：無料

開館時間は、いずれも10:00～17:00(入館は16:30まで)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、在学生・教職員以外の方には事前のご予約をお願いする場合があります。

詳細は大谷大学博物館ホームページにてご確認ください。

大谷大学博物館

〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8483

http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

表紙絵 「アムリタ(無量寿水)」

135×86cm 2021年作

我が国の古事記の最初の国づくりと似ているが(インドから伝わったと考えられる)、インドでは最初、世界が乳海であり、そこに先ずメール山(須弥山)を立て亀に化身したヴィシュヌが乳海内に土台としてそのメール山を乗せ、大蛇をロープとして山を巻き、神々と悪魔群が左右から蛇のロープを攪拌して大地を持ち上げ国をつくったとされている。その乳海攪拌の折、太陽や月などさまざまなものが乳海から生まれたが、その一つがアムリタ(無量寿水)である。アムリタは阿弥陀仏の語源と言える。

親鸞聖人は「正信偈」の最初に「帰命無量寿如来」「南無不可思議光如来または仏」と阿弥陀仏を二つにわけて帰依されている。如来(タターガタ Tathāgata真理を悟った者)と仏(ブツ Buddha目覚めた者)で言葉は違うが同義語である。浄土真宗ではどうしても阿弥陀仏の四十八願

を光に譬えているので、無量光仏(アミターバ Amitābha)の方が大切な教えのようにされているが、無量寿仏(アミターユス Amitāyus)の方も大切に考えなければならない。

私たちは限りない命の一瞬を生きていることを知れば、生死を超えることができる。

インドでは夜明けの太陽に向かって水を捧げる。それはアムリタの象徴である。朝のお勤めとは意外とこのような素朴なことから始まったのではないかと思える。限りない命の中の尊い行いであり、美しい行為である。

コロナウイルス禍も二年目に入った。我が国ではいまだワクチンも特効薬も出来ないでいる。ものごとは移りゆく。コロナも三年も経てば終息に向かうであろう。「八正道」を観想し、行じて生きることと思っている。

畠中 光享(1970年度文学部卒)

日本画家 インド美術研究者

2021年6月25日発行

発行 大谷大学同窓会本部

編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内

TEL (075)411-8124 FAX (075)411-8157

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようものである。くらみやみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにもみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。

ホームページ「無盡燈」毎月1回更新!

大谷大学同窓会



WEBやSNSでは、同窓会の活動や同窓生の活躍、母校「大谷大学」の現況などの情報をタイムリーに発信しています!